



水・大地・空気を未来につなぐ

株式会社ミダック

[証券コード：6564]

2019年3月期

第2四半期決算説明資料

<b>①会社概要・当社グループの強み</b>	<b>…P2</b>
<b>②上期総括、下期方針（見通し）</b>	<b>…P7</b>
<b>③決算内容</b>	<b>…P11</b>
<b>④トピックス</b>	<b>…P19</b>
<b>⑤Appendix</b>	<b>…P24</b>

**①会社概要・当社グループの強み**

②上期総括、下期方針（見通し）

③決算内容

④トピックス

⑤Appendix



社名：株式会社ミダック（MIDAC CO.,LTD.）  
創業：1952年4月（昭和27年）  
資本金：4億1,801万円  
代表者：代表取締役社長 矢板橋一志  
本社：静岡県浜松市東区有玉南町2163番地  
従業員：220名<sup>(注)</sup>（2018年9月末：グループ連結）  
子会社：株式会社ミダックはまな（浜松市西区）  
株式会社三晃（愛知県春日井市）

## 《事業内容》

- 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処分
- 一般廃棄物の収集運搬・処分

## 《保有施設》

### 事業所

- 富士宮事業所（焼却）
- 本社事業所（水処理・収集運搬設備）
- 呉松事業所（破碎）
- 豊橋事業所（混練）
- 関事業所（水処理）

### 営業所

- 東京営業所（神奈川県川崎市）
- 富士宮営業所（静岡県富士宮市）
- 本社・一般営業所（静岡県浜松市）
- 名古屋営業所（愛知県名古屋市）

# ①-2 会社概要 (廃棄物処理の工程)



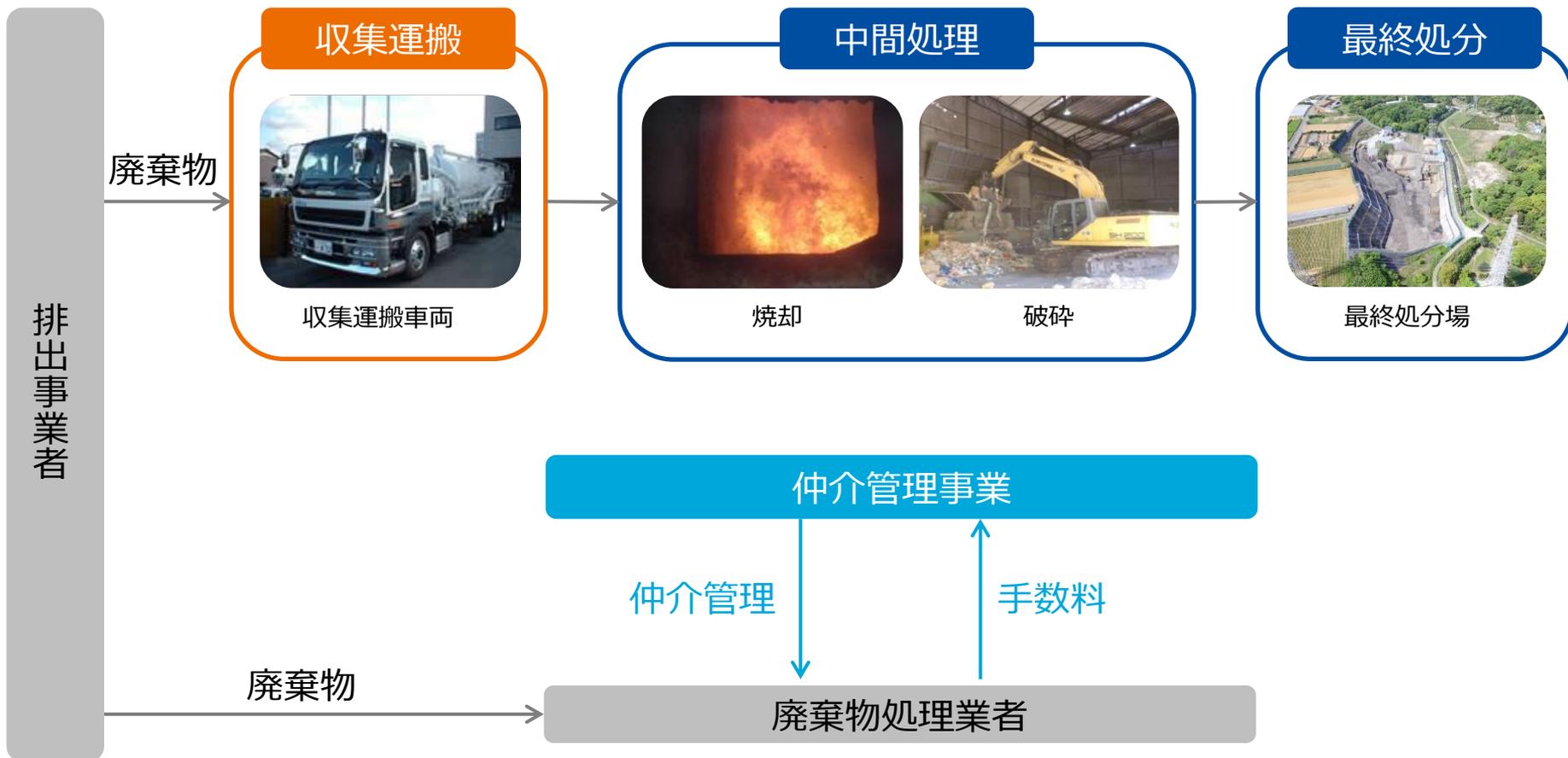
収集運搬事業



廃棄物処分手業

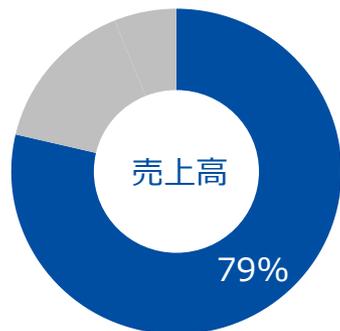


仲介管理事業



# ①-3 会社概要 (セグメント一覧)

## <廃棄物処分手業>



- 自社施設による廃棄物処理サービスを提供
- 廃棄物処理サービスとは、中間処理と最終処分から構成
- 当グループの中核事業であり、多種多様な廃棄物を処理できる体制を構築

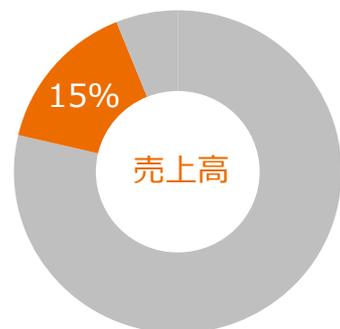


関事業所 (水処理)



呉松事業所 (破碎)

## <収集運搬事業>



- 廃棄物の収集運搬サービスを提供
- 固形物や廃液まで多様な廃棄物を運搬できるよう、各種車両を完備
- 付随して、清掃業務も受注

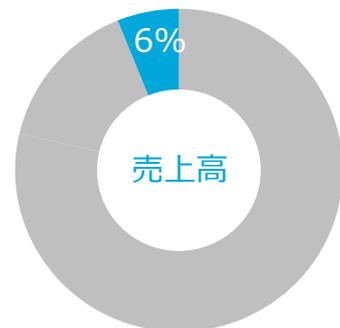


収集運搬車両



清掃業務

## <仲介管理事業>



- 自社以外の処理業者へ顧客の紹介サービスを提供
- 自社処理が困難な廃棄物や、自社の商圏以外の廃棄物に対して、適正な廃棄物処理を提案



富士宮営業所



東京営業所

注:売上高 (2018年3月期実績) には内部売上高を含む

# ①-4 当社グループの強み (一貫処理体制)

- 同業の多くが収集運搬業のみや中間処理業のみであるのに対し、当社グループは様々な設備を有することで、収集運搬から最終処分までを請け負う一貫とした処理体制を構築



- 排出事業者は安心して廃棄物を委託
- グループ内で排出される廃棄物を内製化することで、コスト削減を実現

① 会社概要・当社グループの強み

② 上期総括、下期方針（見通し）

③ 決算内容

④ トピックス

⑤ Appendix

### 上期総括

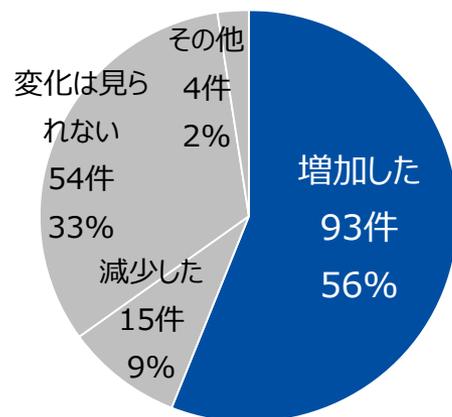
- 最終処分場を運営する子会社のミダックはまなの業績が好調であり、大幅な増収増益を達成
- 最終処分場の埋立容量に限りがあることや、昨今の市場環境（次ページ以降）に鑑み、単価の高い廃棄物の受注に注力した結果、平均単価は上昇傾向
- 新規管理型最終処分場の設置許可については、順調に手続きが進行

### 下期の方針（見通し）

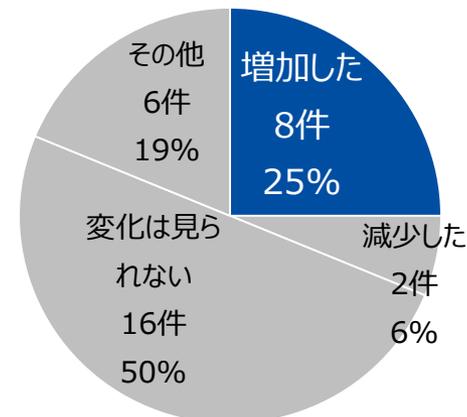
- 足元の業績を踏まえ、焼却や水処理は引き続き堅調な推移を予想し、最終処分場への搬入は年間の埋立計画に則って進めていく方針
- 東京証券取引所市場第2部への上場を目指す
- 焼却施設及び最終処分場の設置候補地の選定や、積極的なM & Aなどを用いて関東方面への進出を図る
- 新規管理型最終処分場の設置許可は当期中に取得できる見込み

- 中国において廃プラスチック等の輸入禁止措置が行われたことを踏まえ、環境省がアンケート調査を実施
- 特に中間処理業者において、処理量の増加や処理料金の値上げが確認できる

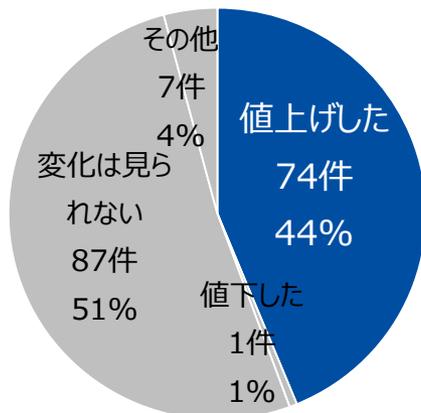
### 中間処理における処理量の変化



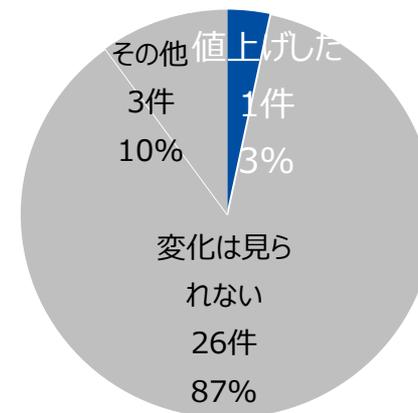
### 最終処分における処理量の変化



### 中間処理における処理料金の変化

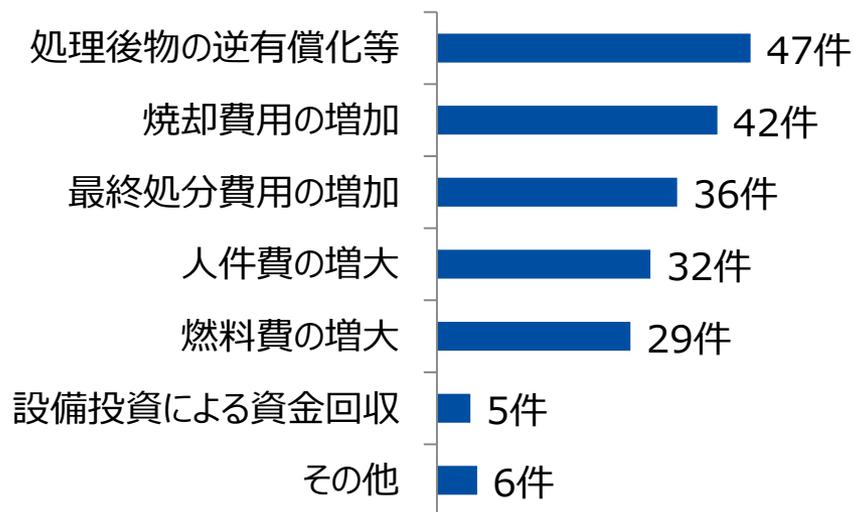


### 最終処分における処理料金の変化



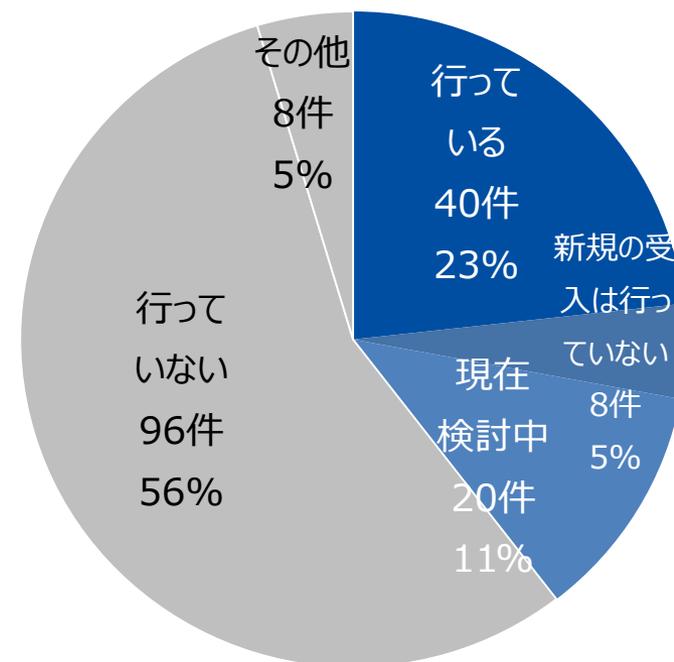
- 値上げの要因は処理後物の逆有償化等が最も多く、次いで焼却・最終処分費用の増加であった
- 受入制限を行っている又は検討している事業者も多く、処理が逼迫している状況にある

### 処理料金値上げの要因



※ 収集運搬、中間処理、最終処分のいずれかで「値上げした」と回答した者を対象

### 受入制限の状況



自社で焼却や最終処分を行う場合は需要の増加により単価の上昇要因に、他社へそれらの処理を委託する場合はコストの増加要因となる

① 会社概要・当社グループの強み

② 上期総括、下期方針（見通し）

③ 決算内容

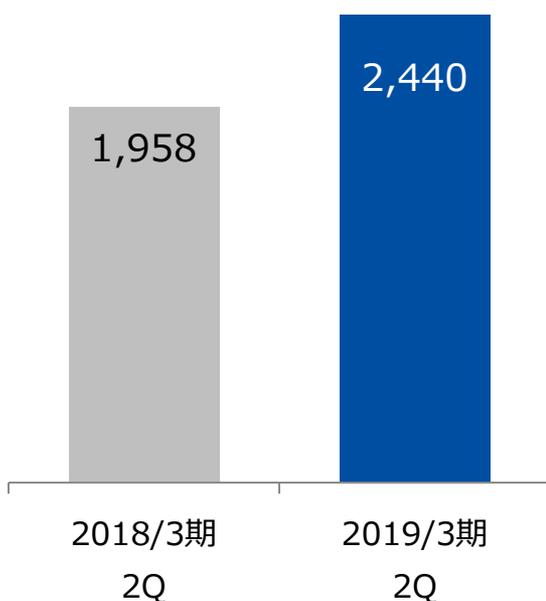
④ トピックス

⑤ Appendix

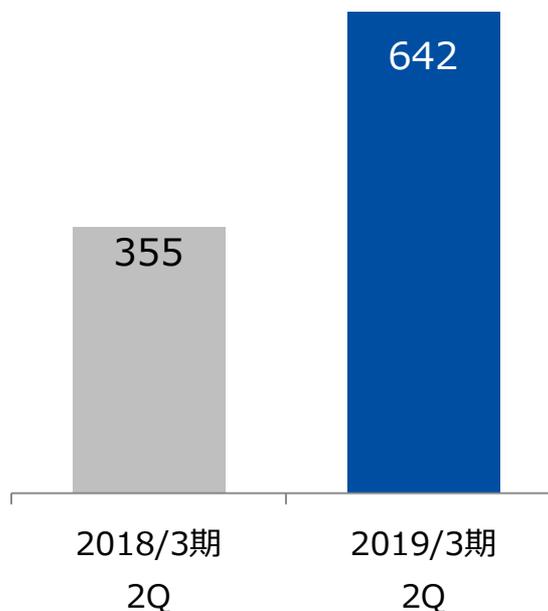
### ③-1 決算内容 (連結業績ハイライト)

- 売上高： **2,440百万円** (対前年+24.6%)
- 営業利益： **642百万円** (対前年+80.7%)
- 四半期純利益<sup>(注)</sup>： **336百万円** (対前年+83.5%)

<売上高>



<営業利益>



<四半期純利益<sup>(注)</sup>>



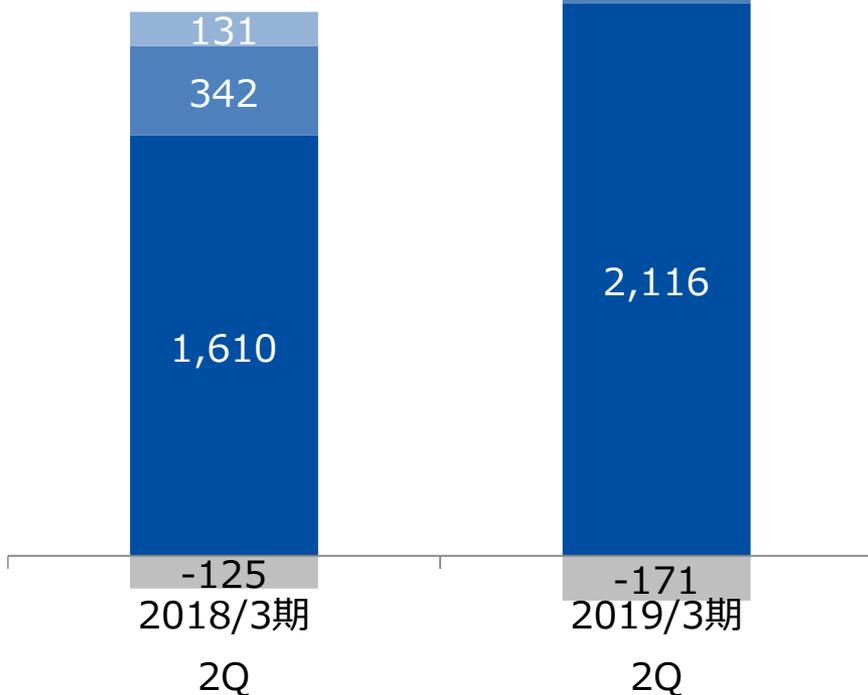
注:親会社株主に帰属する四半期純利益

### ③-2 決算内容 (セグメント別分析)

- 廃棄物処分手業は最終処分場を運営するミダックはまなの業績が好調であり大幅な増収増益
- 収集運搬事業は増収となるも燃料費や人件費の上昇により減益
- 仲介管理事業はスポット案件の反動により減益

セグメント別売上高<sup>(注)</sup>

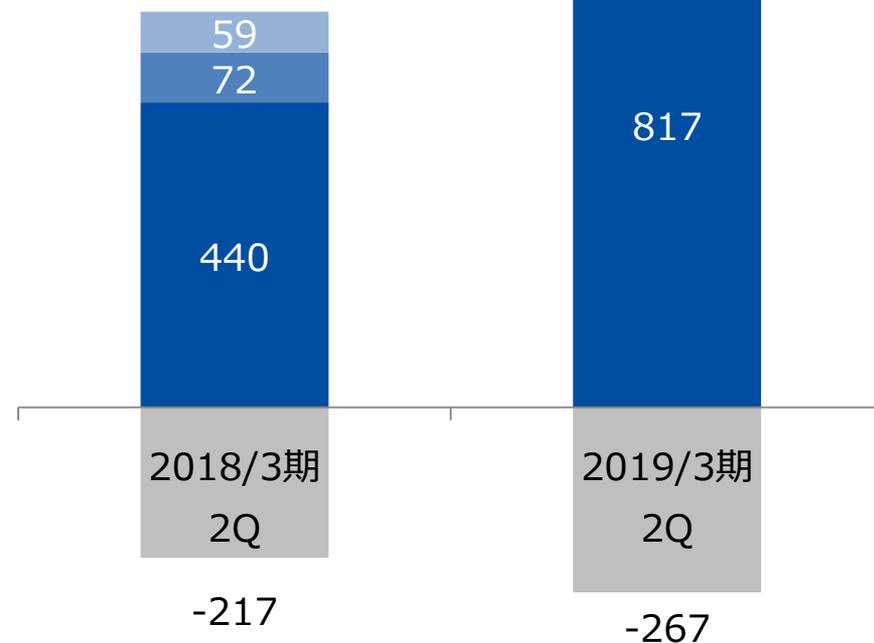
■ 仲介管理 (単位：百万円)  
 ■ 収集運搬  
 ■ 廃棄物処分  
 ■ 調整額



注:内部取引を含む

セグメント利益<sup>(注)</sup>

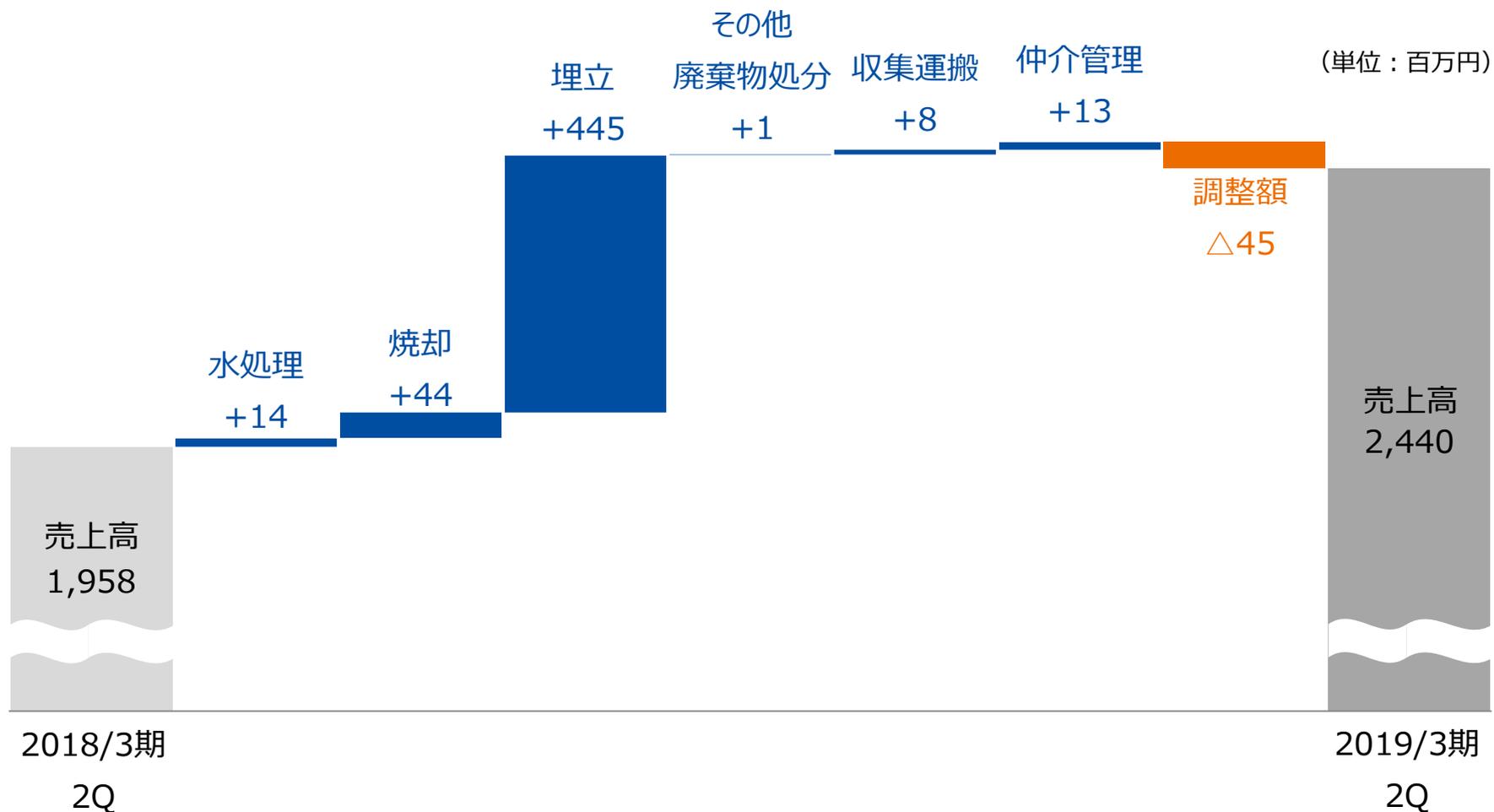
■ 仲介管理 (単位：百万円)  
 ■ 収集運搬  
 ■ 廃棄物処分  
 ■ 調整額



注:内部取引を含む

### ③-3 決算内容 (売上高増減分析)

- 廃棄物処分手業の中でも、埋立が前年同期比で最も増加幅が大きく、次いで焼却、水処理となる
- その他の廃棄物処分や収集運搬、仲介管理は若干の増加



注1: 各カテゴリー別の数値は内部取引を含む

注2: 調整額はセグメント間取引消去の増減

### ③-4 決算内容 (営業利益増減分析)

- 埋立が最も増収幅が大きかったが、固定費が大部分を占めるため大幅に増益に寄与
- 収集運搬・仲介管理は若干の減少



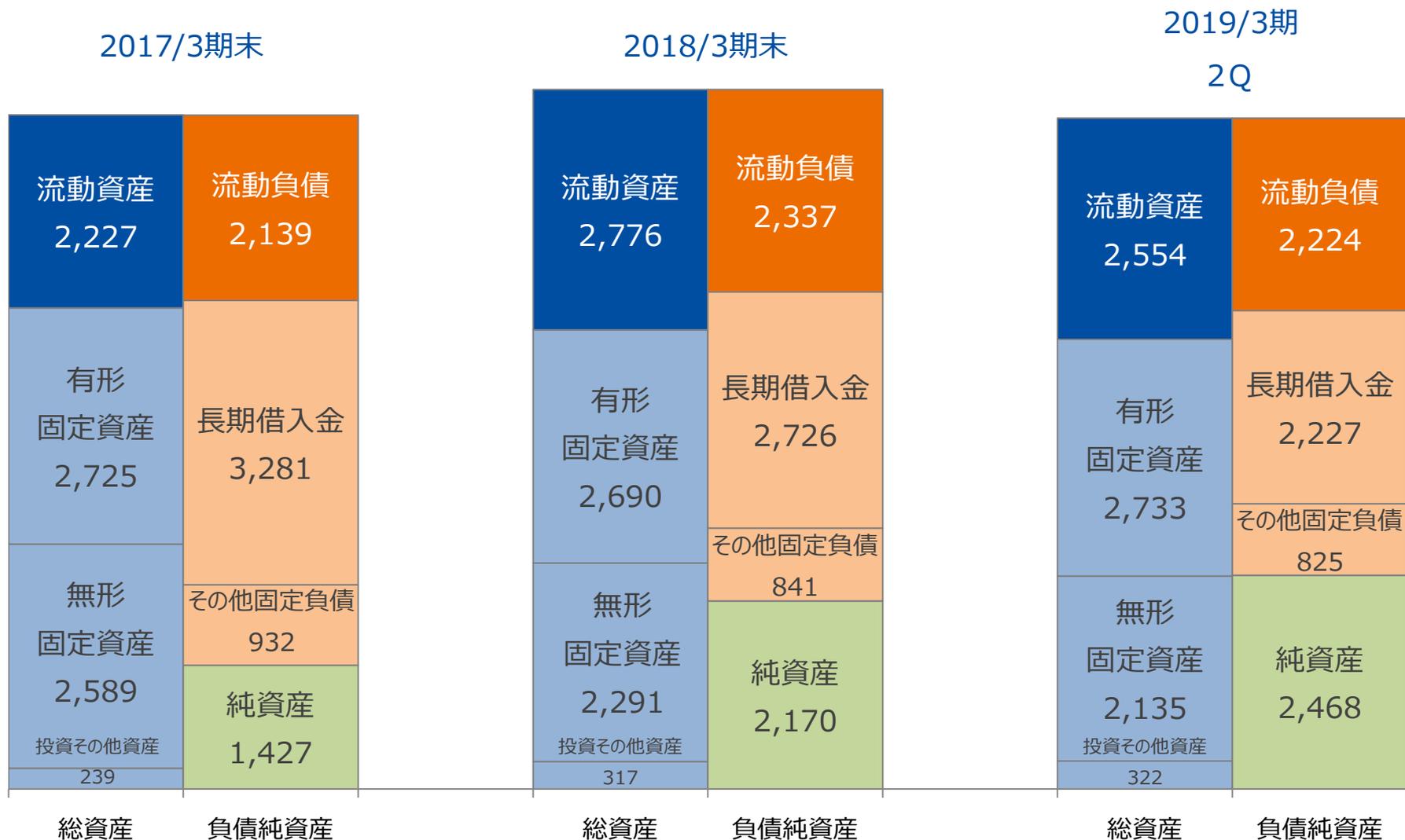
注1: 各カテゴリー別の数値は内部取引を含む

注2: 調整額はセグメント間取引消去と全社費用の増減

### ③-5 決算内容 (貸借対照表)

- 好調な営業キャッシュフローを背景に長期借入金は順調に返済
- 自己資本比率は18%→27%→32%と改善

(単位：百万円)



### ③-6 決算内容 (CF計算書)

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期	増減額
	2Q	2Q	
営業CF	330	<b>719</b>	<b>389</b>
税金等調整前当期純利益	338	<b>646</b>	<b>308</b>
減価償却費	170	<b>181</b>	<b>11</b>
のれん償却額	125	<b>125</b>	<b>0</b>
売上債権の増減額	△ 37	<b>28</b>	<b>65</b>
法人税等の支払額	△ 269	△ <b>295</b>	△ <b>26</b>
その他	4	<b>34</b>	<b>30</b>
投資CF	△ 135	△ <b>244</b>	△ <b>108</b>
有形固定資産の取得による支出	△ 137	△ <b>246</b>	△ <b>108</b>
有形固定資産の売却による収入	3	<b>25</b>	<b>21</b>
その他	△ 1	△ <b>23</b>	△ <b>22</b>
財務CF	△ 381	△ <b>560</b>	△ <b>179</b>
長期借入による収入	150	<b>0</b>	△ <b>150</b>
長期借入金返済による支出	△ 339	△ <b>550</b>	△ <b>211</b>
その他	△ 192	△ <b>9</b>	<b>182</b>
増減額	△ 186	△ <b>85</b>	-
期首残高	1,475	<b>1,903</b>	-
期末残高	1,288	<b>1,818</b>	-

### ③-7 決算内容 (通期業績予想と第2四半期実績)

- 上期に計画を上回る進捗で埋立が進んだため、通期予想を修正
- 単価の高い廃棄物の受注に注力した結果、平均単価が上昇傾向にあることも修正の要因

(単位：百万円)

	2019/3期	2019/3期	構成比	進捗率
	通期予想	2Q実績		
売上高	4,545	2,440	100%	54%
売上原価	2,139	1,100	45%	51%
売上総利益	2,405	1,339	55%	56%
販売費・一般管理費	1,321	697	29%	53%
営業利益	1,084	642	26%	59%
営業外収益	24	26	—	—
営業外費用	49	21	—	—
経常利益	1,059	646	27%	61%
特別利益	0	0	—	—
特別損失	0	0	—	—
税引前当期純利益	1,059	646	27%	61%
法人税等	507	310	—	—
当期(四半期)純利益 <sup>(注)</sup>	552	336	14%	61%

注：親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益

① 会社概要・当社グループの強み

② 上期総括、下期方針（見通し）

③ 決算内容

④ **トピックス**

⑤ Appendix

## ④-1 株式の立会外分売に関するお知らせ

- 平成30年11月13日に公表したとおり、当社株式の立会外分売を予定
- 実施概要は以下の通り

### 実施概要

分売予定株式数	40,000株
分売予定期間	平成30年11月29日（木）～ 平成30年12月3日（月）
分売の値段	分売実施日前日の終値もしくは最終気配値を基準として決定する予定
買付申込数量の限度	買付顧客1人につき100株（売買単位：100株）
実施取引所	名古屋証券取引所
実施の目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・東京証券取引所市場第二部への新規上場における形式要件を充足</li><li>・株式の分布状況の改善</li><li>・株式の流動性向上</li></ul>

- 浜松市北区に新規管理型最終処分場の設置を計画
- 浜松市の条例手続が平成29年9月22日に終了し、設置許可申請が9月27日に同市に受理

### 施設概要

全体面積	約228,000m <sup>2</sup>
埋立容量	約3,125,000m <sup>3</sup>
稼働開始予定	2022年4月以降
埋立予定期間	約30年
投資予定総額	約70億円



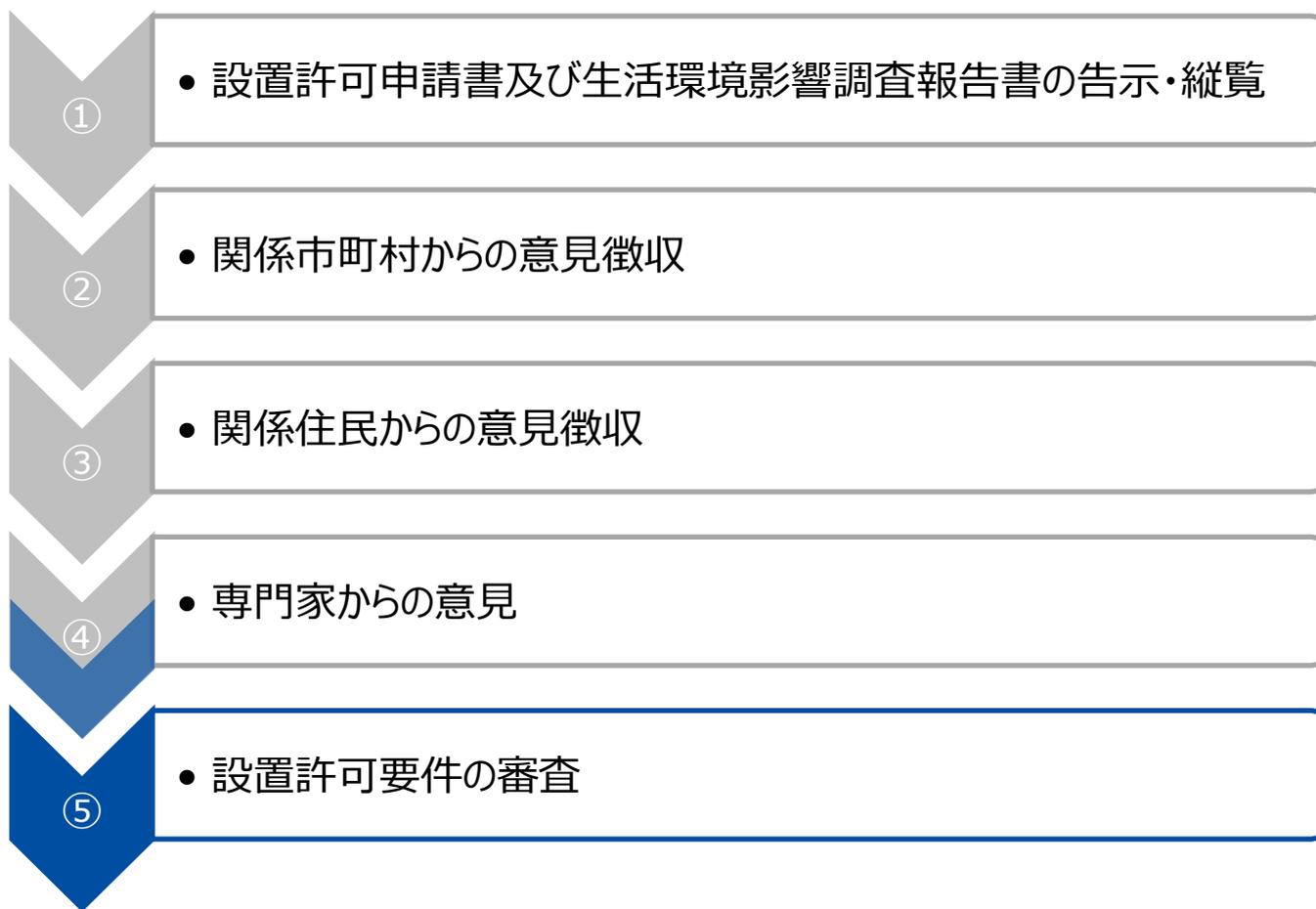
### 既存処分場との規模の比較

新規管理型  
最終処分場  
3,125,000m<sup>3</sup>  
(東京ドーム約2.5杯分)

遠州  
クリーンセンター  
410,575m<sup>3</sup>

- 現在、当社は下記④の専門家からの最終意見が提出された段階
- 当社の見通しでは当期中に⑤の設置許可要件の審査が完了し、許可を取得できる見込み

### 設置許可申請後の流れ



- 関東方面において焼却施設及び最終処分場の設置候補地を選定
- 新規施設の展開については、自社での対応に限らず、積極的なM&Aなど柔軟かつスピーディーに対応

### 自社開発のノウハウ

- 地域住民・自治体との調整→許可取得→建設までのプロセスにおいてノウハウを蓄積
- 専門部署である開発事業部を設置

### M&Aのノウハウ

- 廃棄物処理業界におけるM&Aのノウハウを蓄積



### 関東方面への進出

- 廃棄物の排出量が最も多い関東方面に焼却施設・最終処分場を展開



① 会社概要・当社グループの強み

② 上期総括、下期方針（見通し）

③ 決算内容

④ トピックス

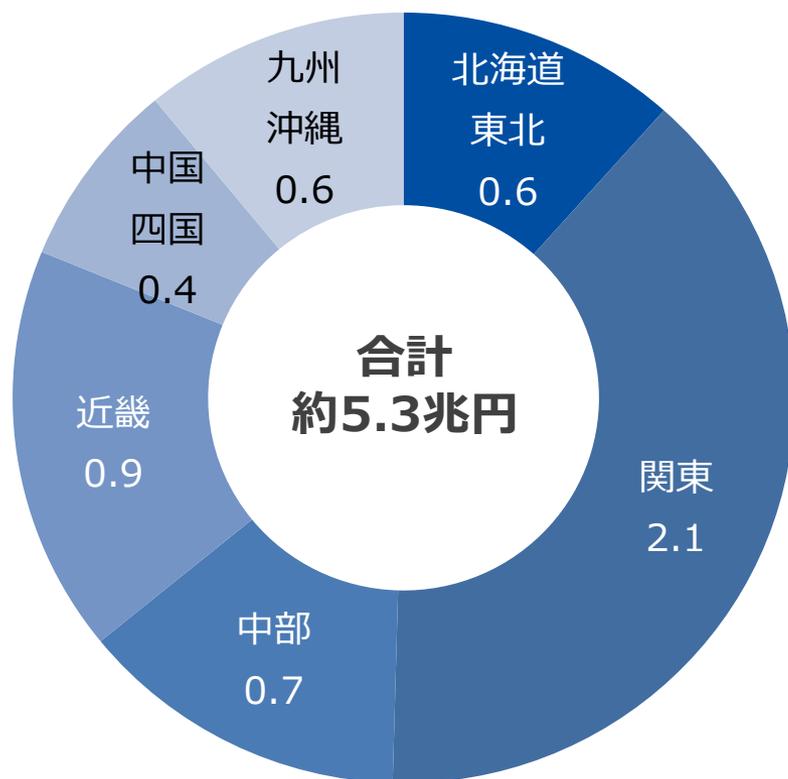
⑤ Appendix

# ⑤-1 業界環境 (市場規模)

- 国内における産業廃棄物処理業界の推定市場規模は、約5.3兆円
- 飲料業界や印刷・関連業と同程度の市場規模

—— 産業廃棄物処理業界の推定市場規模 ——

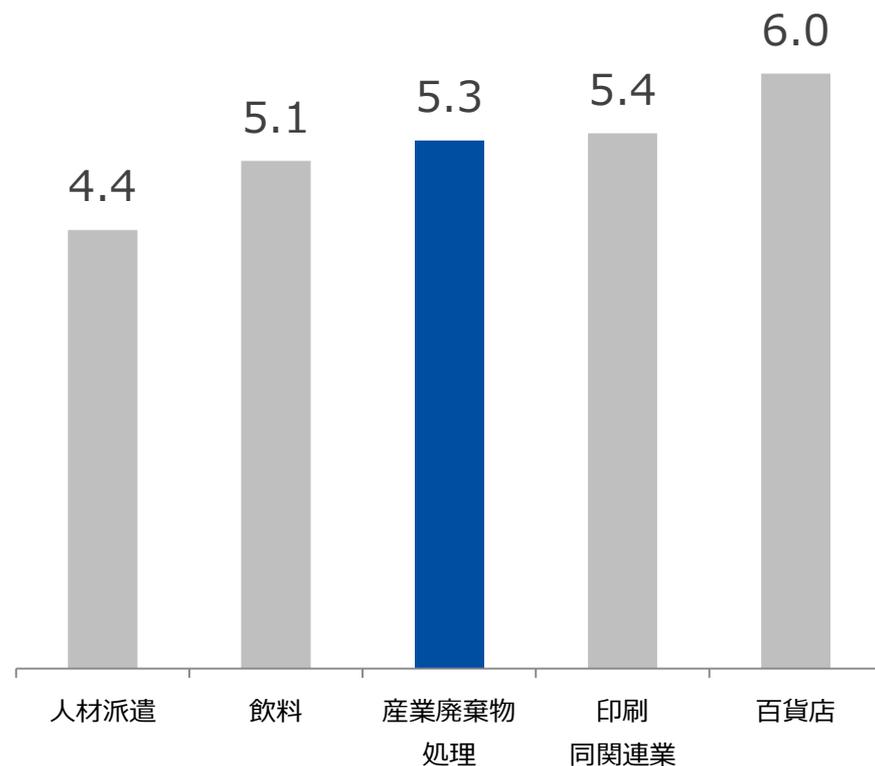
(単位：兆円)



出典：環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」

—— 他業界との市場規模の比較 ——

(単位：兆円)



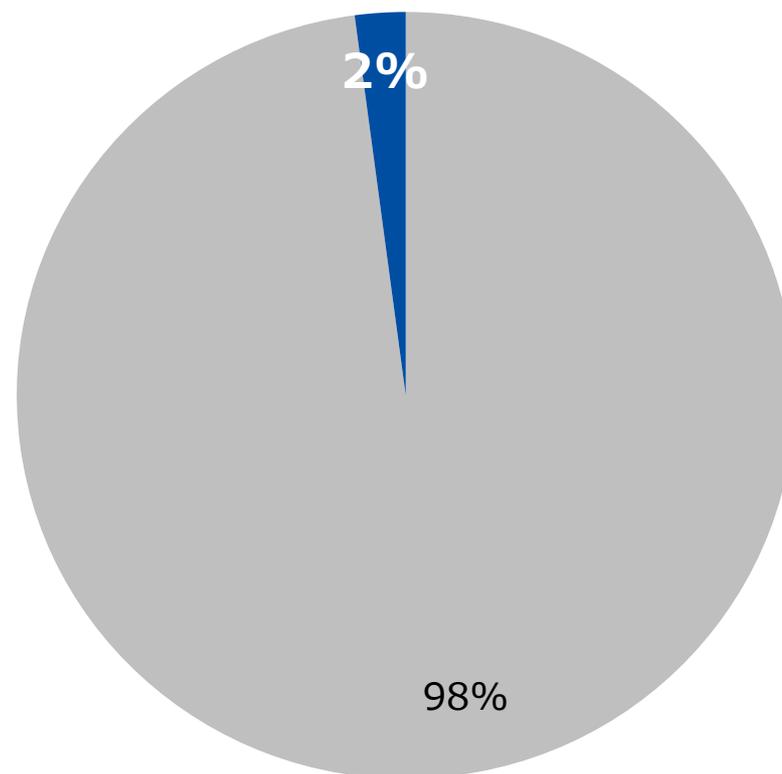
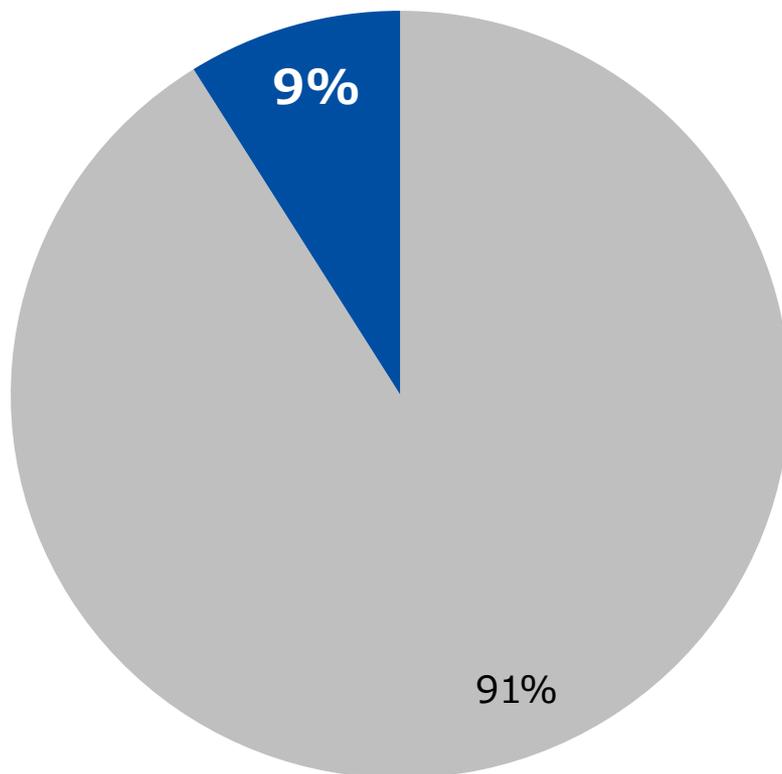
出典：(株)矢野経済研究所「人材ビジネスの現状と展望 2017年度版」(人材派遣)「2017年度版 飲料市場の現状と展望」(飲料)、環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務報告書」(廃棄物処理)、経済産業省「平成29年工業統計速報」(印刷・同関連業)、日本百貨店協会「平成29年12月全国百貨店売上高概況」(百貨店)

## ⑤-2 業界環境 (事業者数の割合)

- 廃棄物処理業界において、主業者のうち、売上高10億円以上の事業者の割合は僅か約9%
- 従業員数が100人以上の事業者の割合も約2%であり、中小零細業者が多数を占める業界

注:産業廃棄物処理業の許可を保有している事業者のうち、産業廃棄物処理業を主業（売上高の割合が50%以上）とする事業者

— 売上高10億円以上の主業者が占める割合 —      — 従業員100人以上の主業者が占める割合 —

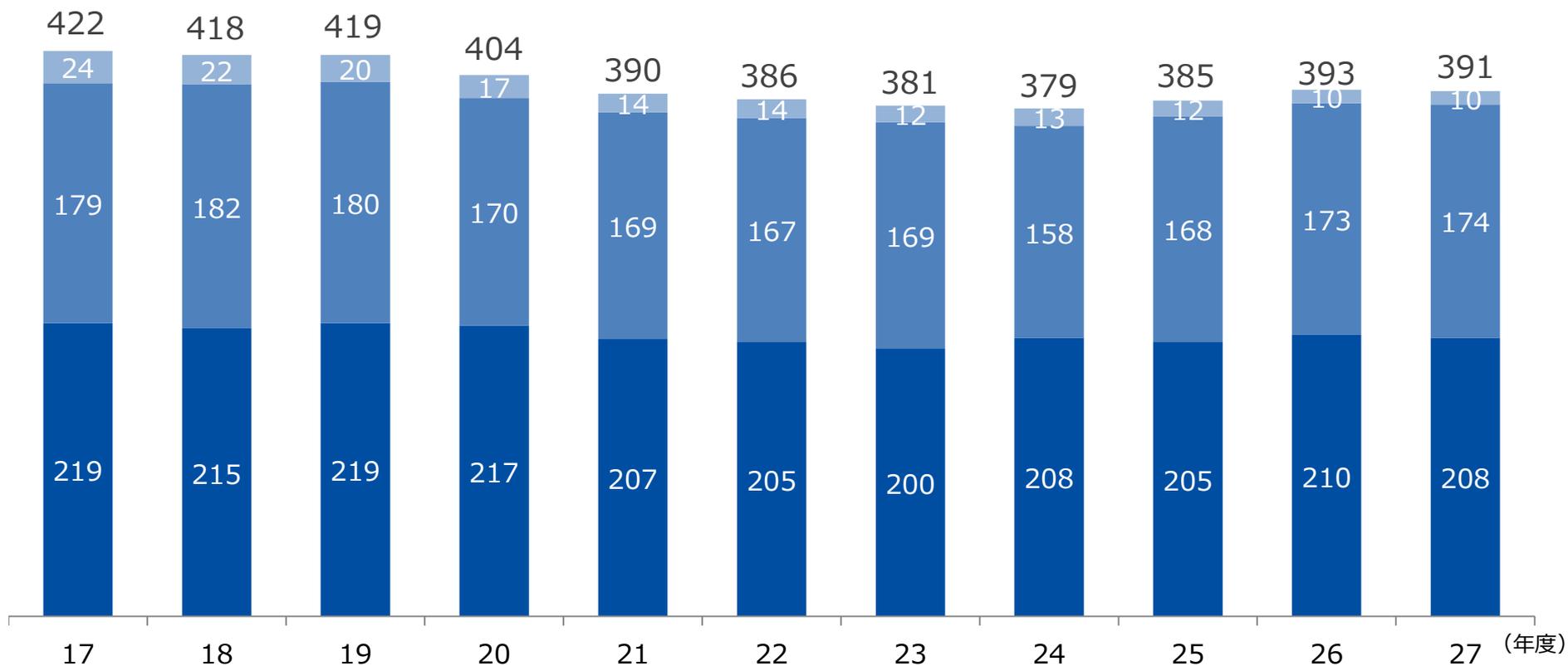


## ⑤-3 業界環境 (産業廃棄物の総排出量)

- 産業廃棄物の総排出量は平成27年度で391百万トンであり、概ね横ばいで推移
- 今後においても、一定の廃棄物の排出が継続するものと予測

■ 最終処分量  
■ 減量化量  
■ 再生利用量

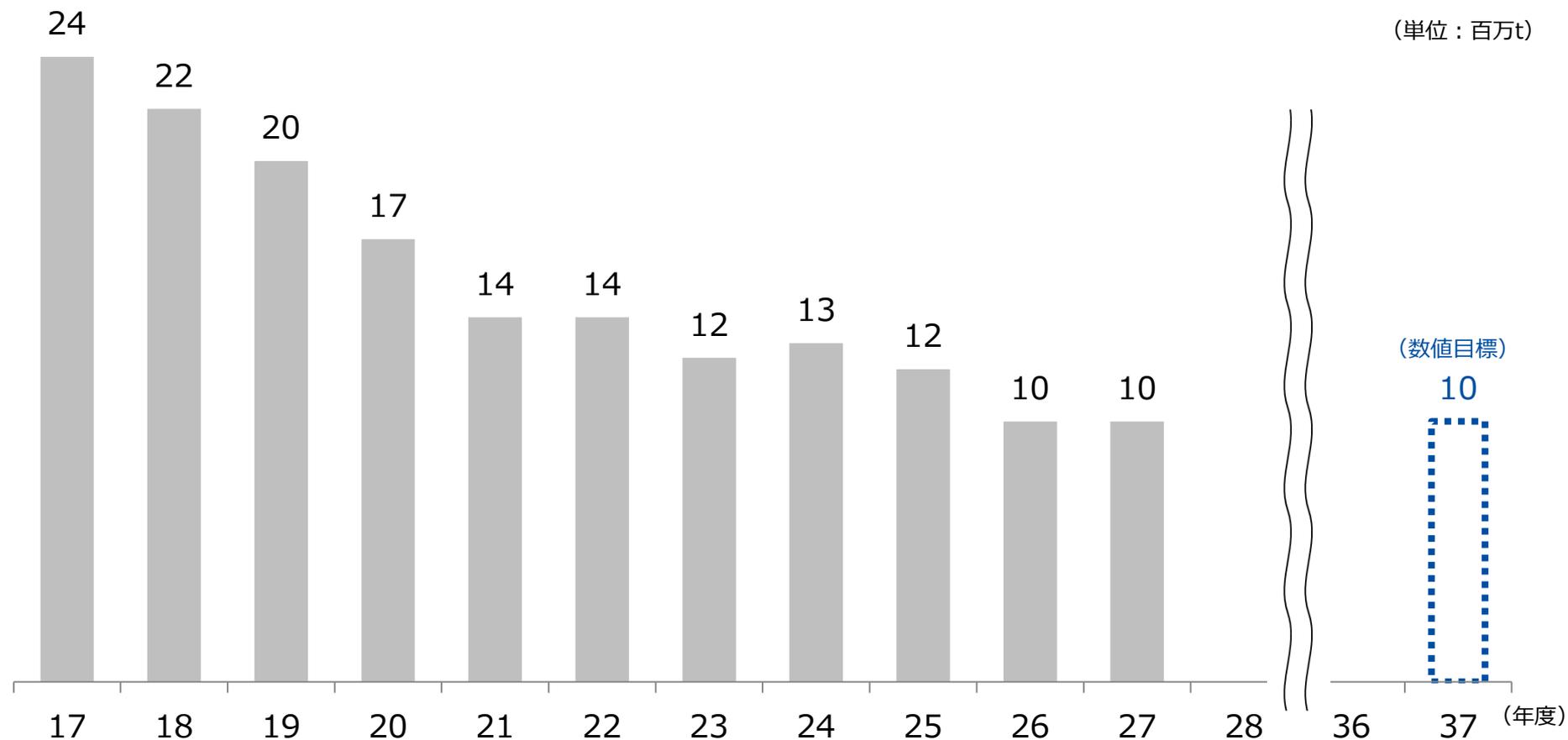
(単位：百万t)



出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成27年度実績）」

## ⑤-4 業界環境 (最終処分量の推移)

- 循環型社会形成推進基本計画では平成37年度の最終処分量の数値目標を約10百万トンと設定
- 最終処分は今後も不可避免的に発生し、最終処分場は社会に必要不可欠な存在



出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成27年度実績）」、環境省「循環型社会形成推進基本計画（平成30年6月）」

# ⑤-5 業界環境 (処理施設数と最終処分場の残余量)



- 産業廃棄物処理施設数は概ね横ばい傾向にあるが、緩やかな減少傾向
- 最終処分場の残余量は新規の設置が進まず減少傾向

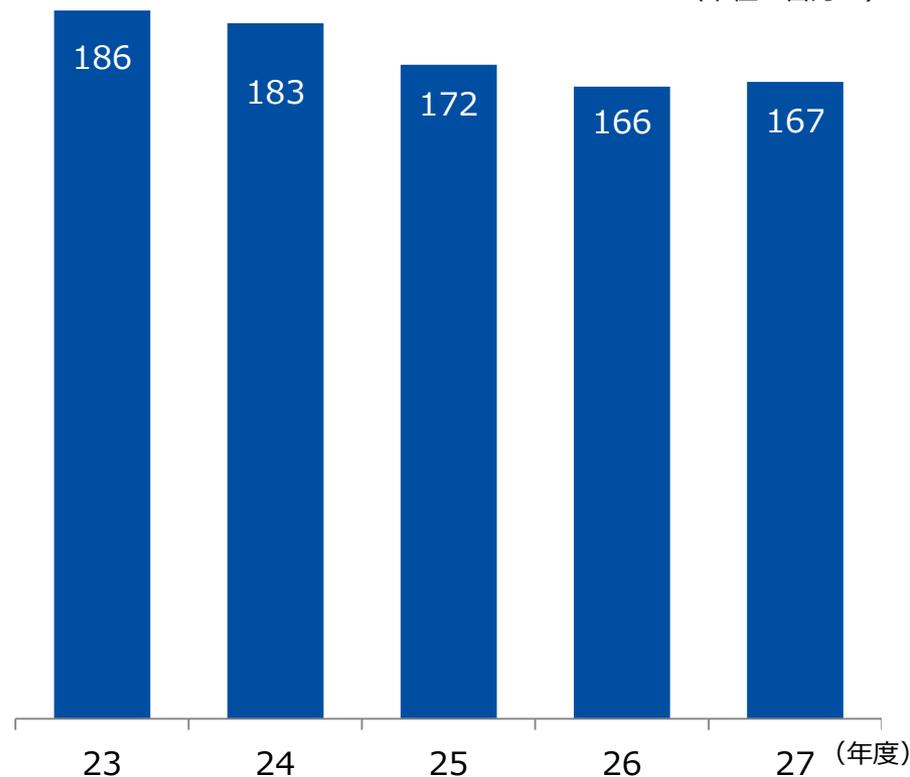
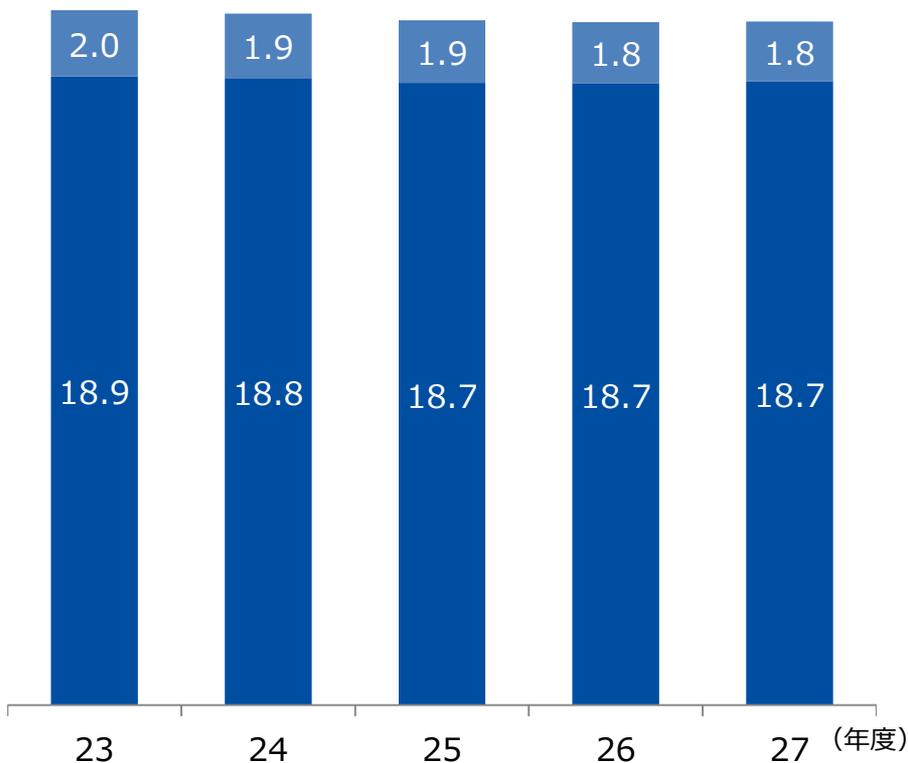
産業廃棄物処理施設件数の推移

最終処分場の残余量の推移

■ 最終処分場  
■ 中間処理施設

(単位：千件)

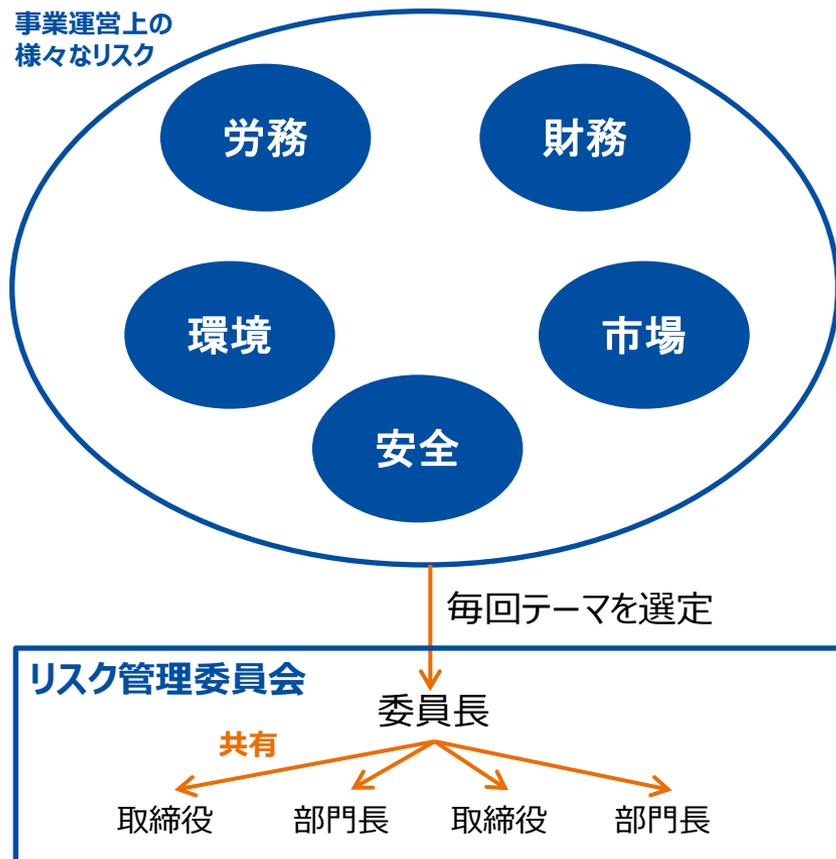
(単位：百万㎡)



出典：環境省「産業廃棄物処理施設の設置、産業廃棄物処理業の許可等に関する状況（平成23年～27年実績）」

- 事業を遂行する上で生じる様々なリスクに対応するため、下記のような取組を実施

## リスク管理委員会



**コンプライアンスの徹底**

## 判定委員会

協力関係にある廃棄物処理業者において、廃棄物の適正処理が確保されるよう、厳格な審査を実施

### ①書類調査

- 帝国データバンクの信用調査や日経テレコンの記事検索により状況を確認

### ②現地調査

- 当社独自のチェックリストを元にヒアリングし、現物確認した上で、法定項目等を確認

### ③委員会の審議

- 関係各部署の役職者が取引可否を審議

**不適正処理を未然に防止**

- 社員と家族がいつまでも安心して働くことができるよう、より良い職場環境を確保

## プラチナくるみマークの認定取得

2015年8月に静岡県の企業では2番目（産業廃棄物処理業界では初）の**プラチナくるみマーク**を取得しました。



「プラチナくるみ認定制度」は、平成27年4月1日施行の改正次世代法により創設され、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定（くるみ認定）を受けた企業のうち、より高い水準の取組みを行った企業が認定を受けられる制度です。

## 週に3日のノー残業 <月・水・金>

ミダックでは週に3日のノー残業デーを実施しています。

## 有給休暇の計画的付与

ミダックでは年次有給休暇の取得促進のため有給休暇の計画的付与を行っています。

## ワークライフバランス企業の認定取得

2017年2月に**浜松市ワークライフバランス等推進事業所**を認定取得しました。



働きやすい職場環境づくりや女性活躍の推進を図るため、仕事と家庭（子育てや介護）、地域活動等との両立支援などのワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる事業所を認証する制度です。

## 育児・介護を支援

ミダックでは育児や介護による休業について、その一部を有給化することにより、育児・介護を支援しています。

## 女性従業員支援

ミダックでは働く女性を応援するセミナーや勉強会を定期的を実施することによって、女性従業員がより働き易くなるよう職場の環境づくりに積極的に取り組んでいます。

■ 地域社会との良好な関係を構築するため、また環境保全のため、当社グループは精力的に活動

## ウェルカメクリーン作戦【5月】

毎年5月に浜松市指定天然記念物であるアカウミガメが安全に産卵できるよう遠州灘海岸清掃活動を行っています。



## 環境教育【10月】

毎年秋ごろに有玉小学校（浜松市）を訪問し、ゴミに関する知識や分別・減量の大切さを楽しく学べるよう環境授業を行っています。



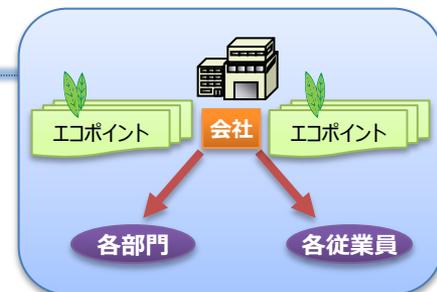
## 富士山エコツアー【8月】

毎年8月に浜松市剣道連盟の子供たちと共に、富士山のボランティア清掃活動を行っています。また24時間テレビ「富士山をきれいにするプロジェクト」や社員有志での富士登山清掃活動なども行っています。



## エコポイント付与制度

各部門、各従業員の環境負荷低減活動に対してエコポイントを付与し現金として還元することにより、社員の積極的な環境活動を促進しています。



## ミダック祭【9月】

毎年9月に地域住民の皆さんや従業員とその家族などを招いてミダック祭を開催しています。



## エコキャップ回収運動【通年】

社員よりペットボトルキャップを回収し、NPO団体へ寄付しています。発展途上国の子供のワクチン購入にあてられます。

## 新潟県中越沖地震【07年7月】

新潟県中越沖地震での災害ゴミ処理支援を行いました。支援期間：07年8月31日～07年9月5日／支援範囲：柏崎市



- 本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等の特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません
- 本資料に記載されている見解・見通し・予測等は、資料作成時点での当社の判断です。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません



水・大地・空気を未来につなぐ

## 経営理念

ミダックは、水と大地と空気そして人、すべてが共に栄えるかけがえのない地球を次の世代に美しく渡すために、その前線を担う環境創造集団としての社会的責任を自覚して、地球にやさしい廃棄物処理を追求してまいります。

株式会社ミダック